1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼山崎町6-8-1 (電話) 058-379-6205		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年8月14日

【情報提供票より】

(平成19年6月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日 現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護 1	2 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	名		要支援 2	名	
年齢	85.1 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新鷺沼ケアクリニック ・ 東海中央病院 ・ 大野歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「菜の花」ような黄色を主体とした暖かい雰囲気建物である。管理者のもと、チームワークの良い職員が一緒になり、これまで築かれてきたホームに地域交流や外出等新たなアイデアを採り入れて、より豊かな生活になるよう努力している。利用者の気持ちを大切に、料理や畑仕事・人の世話等持てる力が発揮できるように支援している。また、電車を利用した外出や歩いて喫茶に出かけられる等、楽しみながら機能訓練をし、身体機能の低下防止を図っている。医療法人であるため、24時間対応可能な医療体制や他機関との連携等、利用者の毎日の安心に繋げ、また、ターミナルケアにも取り組んでいるので家族からの信頼も厚い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ、居室の掛け時計とカレンダーは、利用者の好みに合ったものがホームからプレゼントされ、利用者のそれぞれ見やすい位置に掛けられ改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価も職員全員で話し合い、日々のケアを振り返る機会とされた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回、自治会、行政、家族等をメンバーに開催している。認知症への理解、ヒヤリハット報告等、ホームへの理解を得る報告が主である。ホーム便りを地域に配布するか否か等の積極的な討議もされたが、個人情報の関係で現在の所は保留している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱も用意されているが、家族の来訪時に直接話を聞くことを大切にしている。苦情は、職員が判断して回答するのではなく、必ず管理者に報告し、管理者から説明する仕組みづくりがされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	買い物をするときは、地域の店に利用者とともにいき、また、夕食や出前は地域の店を利用する等、地域との関わりを大切にしている。また、自治会に加入し、挨拶等日々の付き合いを心がけ、近所には畑の収穫物を届ける等、地域との連携を前向きに取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは施設ではなく、利用者にとって家庭としての生活の場であることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勤務年数の長い職員が多く、理念を十分に理解し、掃除、洗濯等の生活の様々な場面において利用者と一緒にいることを心がけるなど、日々のケアの中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物をするとき、地域の店に利用者とともにいき、また、外食や出前は地域の店を利用する等、地域との関わりを大切にされている。また、自治会に加入し、挨拶等日々の付き合いを心がけ、近所には畑の収穫物を届けている。		更に管理者は、自治会班長になり利用者とともに区費集金や広報配布をする等、地域と積極的に関わりたいとの希望も持っているので、ひとつずつ実現し、より地域に密着したホームとなるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、各部屋に時計を設置される等、その都度対応策を検討し、改善している。また、今回の自己評価も職員全員で話し合い、日々のケアを振り返る機会となった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、自治会、行政、家族等をメンバーに開催されている。認知症への理解、ヒヤリハット報告等、ホームへの理解を得る報告が主である。ホーム便りを地域に配布する意見も出たが、個人情報の関係で現在の所は保留している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今回、管理者変更の手続き等により、市と行き来の機会が多くあり、お互いの認識は深まった。	○	この機会を活かして、ホームの取り組みを理解してもらうような積極的・具体的な働きかけを、ホーム側からしていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や必要に応じて報告する他、月1回のホーム便りと、利用者一人ひとりの様子を手書きしたものを、請求書とともに渡し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も用意されているが、家族の来訪時に直接話を聞くことを大切にしている。苦情は、職員が判断して回答するのではなく、必ず管理者に報告し、管理者から説明する仕組みづくりがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者へのダメージを十分理解されており、法人間の異動は最小限にとどめられている。ユニット間では2～3ヶ月ごとに職員2人ずつが入れ替わり、職員は利用者全員を理解し、支えていけるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加は職員の段階によって年間計画が立てられており、勤務を配慮している。また、業務として参加し、研修内容は報告書の作成とともにミーティングで報告し、全職員に共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や研修会に参加し交流を図るとともに、地域のグループホーム職員の見学を受け入れる等、連携をとっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接をホームで行い、入所前にホームの見学をしてもらい、理解、納得した上で入所してもらうようにされている。また、入所後は他の利用者が友好的に受け入れ、コミュニケーションをとるので、職員は利用者が馴染むのを見守っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	世話好きな方や料理の上手な方等、利用者の一人ひとりの生活歴や得意なことを把握し、場面ごとに力を引き出し、職員も含めて互いに教え合い、支え合って生活している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話を聞くことを何よりも大切にし、会話の中から希望を汲み取り、要求に応じられるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等のアセスメントを基に介護計画を作成している。家庭的な生活の中に介護のプロが関わるホームの特性を活かし、身体機能の維持・向上を目標のひとつとして、日常生活をしていく中での機能訓練を計画に取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しの他、日々の気づきは会議で職員が出し合って話し合い、必要に応じて見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診に家族が付き添えない時は職員が対応したり、地域に住む独居老人にホームの電話番号を教え、困った時には連絡や来訪するよう伝える等、ホームの機能を活かした柔軟な支援がされている。また、利用者は法人内デイサービスでリハビリをすることもできる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、近くの法人母体の病院に受診に出かける他、週2回訪問看護師の来訪がある。また、法人医師が症状に合わせて医療機関を紹介し、家族の希望と同意を得て受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化や終末期におけるホームの方針を説明して家族の同意を得、終末期になった時は、再度家族の希望を書いてもらい、医師、職員も一緒に話し合いを重ね、その思いを共有している。医療法人であるため医師、看護師の対応が迅速にでき、これまでも看取りの実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	排泄支援のトイレ誘導は居室で行い、リビングでの声掛け誘導はしない等、すべての場面において人格を尊重した対応を心がけている。また、個人記録は事務所に管理し、扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は時間を特に決めず、朝食も利用者一人ひとりの時間に合わせて対応される等、何事にも無理強いをせず、利用者の希望に添って毎日が過ごせるよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等、それぞれの利用者ができる範囲で協力して行っている。また、出前を取ったり、公園に行く時は利用者も一緒にお弁当を作り持って行く等、変化をつけて楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日浴室は準備されているので、利用者の希望に添って無理強いすることなく、週3～4回程の入浴をしている。中には毎日入浴を楽しまれる方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中では、畑仕事や食事作り、掃除や梅干漬け等職員が教えてもらいながら一緒に行われており、また月1回は地域の喫茶店へ歩いてモーニングに出かける等、利用者の楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへの買い物や神社への散歩等、機能の低下防止も考慮して、歩いての外出の機会を作っている。また、駅員や車掌の協力を得て、電車に乗って公園に出かけ、手作り弁当を食べる等の支援も行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、玄関の鍵は掛けられていない。玄関にはチャイムがあり、外には門があるため、利用者が外出されることを職員が察知でき、出て行ったときは見守りながら同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接のデイサービス・法人内の新人の職員と共に年2回消防訓練が行われているが、利用者の参加はない。有事の際の水や食糧の備蓄も確保され、定期的に入れ替えられる等配慮されている。	○	更には、利用者の心身への配慮をされつつも、避難経路の確認と共に外へ避難する訓練を一緒に行ったり、有事の際には協力が得られるよう近隣の方に呼びかけられると、訓練がより有効なものとなると思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望と栄養バランスを考慮して献立をたて、健康状態に合わせ、メニューや調理方法を個人対応している。摂取食事量・水分量は記録し把握されている。病院退院後、胃ろうだった利用者が、重湯から始め、普通食が食べられるようになった方もある。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム名の「菜の花」のとおり黄色を主体とした暖かい雰囲気の内装で、居間には観葉植物や季節の花が多く置かれ、壁には入居者と一緒で作った千切り絵の作品、写真が貼られている。ソファや畳コーナー等があり、居心地良く過ごせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、ベッド・タンス等は利用者の持ち込みで居心地の良い居室になっている。前年度改善点であった居室の掛け時計は、利用者の好みに合ったものがホームからプレゼントされ、利用者のそれぞれ見やすい位置に掛けてある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。